

家族による日常生活報告書チェックシート

高次脳機能障害の後遺障害等級認定に向けて | 弁護士監修

■ 基本情報

被害者氏名（ふりがな）		記入日	
報告者氏名（続柄）		事故日	
観察期間		担当弁護士	

【記入の前に必ずお読みください】

このシートは「事故前と比べて」どう変化したかを記録するものです。「できる・できない」の二択ではなく、どの程度・どんな場面で困っているかを具体的に記入してください。曖昧な表現より、日時・場所・状況を伴う具体的エピソードが認定を左右します。

① 記憶・物忘れ（目安：3つ以上 → 専門医受診を検討）

- 同じことを何度も聞いてくる（数時間前の会話を覚えていない）
- 約束した日時・内容を忘れる（カレンダーを見てもピンとこない）
- 買い物で同じものを重複して購入してしまう
- 話の途中で「何を話していたか」がわからなくなる
- 財布・鍵・スマホなど毎日使うものの置き場所を頻繁に忘れる
- 事故後の出来事の記憶が曖昧・抜け落ちている期間がある

② 注意・集中力（目安：3つ以上 → 専門医受診を検討）

- テレビや会話中にすぐ別のことを考えてしまう・上の空になる
- 数字の書き間違い・読み飛ばしなど単純なミスが増えた
- 複数のことを同時にこなせなくなった（料理中に来客対応など）
- 騒がしい場所・刺激が多い環境で特に混乱しやすくなった
- 長時間の読書・作業を続けられなくなった（30分以内に集中が切れる）
- 会話中に話を最後まで聞けない・聞いていない様子がある

③ 感情・性格の変化 最も見落とされやすい！1つでも強く当てはまる場合は要注意

- 些細なことで激しく怒る・感情的になる頻度が増えた
- 逆にまったく感情を表さなくなった（喜怒哀楽が薄くなった）
- 以前は熱心だった趣味・好きなことへの関心が急になくなった
- 自己中心的になった・相手の気持ちを考えない言動が増えた
- 暴言・暴力など、これまでなかった行動が出るようになった
- 泣きやすくなった、または逆にまったく感動しなくなった
- 子どもっぽい言動・幼稚な反応が増えた

「性格が変わった」という家族の感覚は、それ自体が高次脳機能障害の重要なサインです。1つでも強く当てはまる場合は専門医受診を検討してください。

④ 行動・意欲（目安：3つ以上）	⑤ 言語・コミュニケーション（目安：2つ以上）
<input type="checkbox"/> 何もしたくない・ぼんやりしている時間が増えた	<input type="checkbox"/> 言葉が出てくるのに時間がかかる
<input type="checkbox"/> 自分から行動することがなくなった	<input type="checkbox"/> 言いたい言葉が思い出せない（「あれ、なんだっけ」が頻発）
<input type="checkbox"/> 段取りを組んで物事を進められない（料理・仕事・家事）	<input type="checkbox"/> 話の流れが脈絡なくなった・話題が突然変わる
<input type="checkbox"/> 衝動的な行動が増えた（考える前に動いてしまう）	<input type="checkbox"/> 冗談・皮肉・比喩表現が通じなくなった
<input type="checkbox"/> 清潔感・身だしなみへの関心が薄れた	<input type="checkbox"/> 読み書きでのミスが増えた
<input type="checkbox"/> 遅刻・予定を守れないことが増えた	<input type="checkbox"/> 会話のテンポが極端に遅く（または速く）なった

■ 具体的エピソード記録欄（日時・場所・状況を詳しく記入）

✓ 良い記入例	「2024年11月15日（木）夕方、スーパーで牛乳を買って帰宅。翌朝、冷蔵庫に昨日買った牛乳があるのに、また同じスーパーで牛乳を2本購入してきた。指摘しても本人は覚えていない様子だった。週に2〜3回このようなことが起きている。」
エピソード 1	
エピソード 2	
エピソード 3	

<input type="checkbox"/> 弁護士に提出前に確認した <input type="checkbox"/> 担当医・リハビリ担当者に内容を共有した <input type="checkbox"/> 写真・動画など補足証拠を別途添付した	提出前チェック：このシートを弁護士・医療チームが確認することで、記載漏れや表現の不備を補正できます。一人で完成させようとせず、必ず専門家と一緒に見直してください。
--	---

※本シートは法的・医療的診断を行うものではありません。具体的なお状況は専門の医師・弁護士にご相談ください。